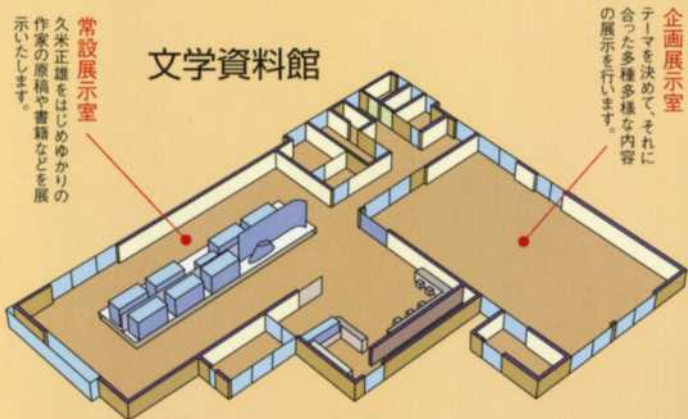


郡山の風土が育んだ文学者達

郡山市にゆかりのある多くの作家たちは、郡山の歴史的・社会的風土を背景に多くのすぐれた作品を残しました。

文学資料館では彼らの辿った足跡をご紹介します。

文学の森



企画展示室
テーマを決めて、それに合った多種多様な内容の展示をいたします。

常設展示室
久米正雄をはじめゆかりの作家の原稿や書籍などを展示いたします。



諏訪三郎
安積郡赤津村出身
(現郡山市湖南町)
(明治十九年〜昭和四十九年
(一九〇六〜一九七四))

「中央公論」や「婦人公論」などの雑誌記者を経て、「郊外の貧しき街より」で作家としてデビュー。郡山を舞台にした「大地の朝」がベストセラーとなる。



鈴木善太郎
郡山市大町出身
(明治十一年〜昭和十五年
(一九〇一〜一九五〇))

小説「幻想」で新進作家として認められた。モルナー「リリオム」チャベツク「口ポット」などの戯曲を日本に翻訳紹介し、日本演劇の発展に貢献した。



真船 豊
安積郡福良村出身
(現郡山市湖南町)
(明治三十五年〜昭和五十五年
(一九〇二〜一九七七))

アイルランド文学のシングの影響を受け、早稲田大学在学中に「寒鴉」などを発表。方言を科白に取り入れた戯曲「鮎」が、絶賛され劇作家の地位を得た。



中山義秀
岩瀬郡大屋村出身
(現白河市大信)
(明治三十一年〜昭和四十四年
(一九〇〇〜一九七三))

金透小学校・安積中学校(現安積高校)に学ぶ。早稲田大学を卒業後「厚物咲」で第七回芥川賞を受賞。郡山を舞台にした「残照」や県内を舞台にした作品が多い。



玄侑宗久
三春町在住
(明治三十年〜
(一九〇一〜一九七三))

安積高校、慶応義塾大学卒業。現在、三春町福聚寺住職。「中陰の花」で第二回芥川賞を受賞。以後、「アブラクサスの祭」等の作品を次々に発表し活躍中である。



宮本百合子
(中條百合子)
東京都出身
(明治三十一年〜昭和十六年
(一九〇一〜一九四五))

祖父は安積開拓の父とも呼ばれた中條政恒。毎年、祖母が住む開成山を訪ね、貧困に苦しむ開拓民の生活を「貧しき人々の群」に描く。長編小説「伸子」を発表。その後、プロレタリア文学運動に参加。志を同じくする宮本顕治と再婚する。戦時中の厳しい状況でも創作は止むことはなく、病死するまで執筆活動を続けた。



高山樗牛
山形県鶴岡市出身
(明治四年〜明治三十五年
(一八七二〜一九〇二))

福島中学校(現安積高校)に学ぶ。東京帝国大学在学中に読売新聞懸賞小説に「瀧口入道」が入選。思想家・評論家として活躍するが、三十一歳の若さで病没。



石井研堂
郡山市大町出身
(明治五年〜昭和十八年
(一八七四〜一九四三))

金透小学校を卒業後、同校の教員となる。上京して少年雑誌「小国民」「実業少年」等を編集発行し、少年たちの啓蒙に尽くす。代表作は「明治事物起源」。



レファレンスルーム
文学資料館で紹介した作家などの書籍を見ることが出来ます。

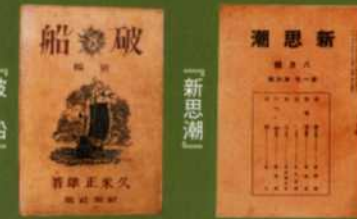
展示室
久米正雄の愛用品が展示され、多様な興味と幅広い交友関係を知ることが出来ます。

小ホール
久米正雄やゆかりの作家をモチーフとした映像を見ることが出来ます。

久米正雄記念館

久米正雄記念館は内部を一般に公開いたします。大正時代の文士の館をご覧ください。

久米正雄 長野県上田出身
明治二十四年〜昭和二十七年(一九〇一〜一九五二)
父の死後、母方の実家である開成山に居をかまえ、安積中学校時代から三汀と号して句作を始めている。
第一高等学校現 東京大学に入学後、芥川龍之介・菊池寛などと共に第三次「新思潮」を發刊。郡山を舞台にした戯曲「牛乳屋の兄弟」で劇作家として認められる。
夏目漱石令嬢筆子との失恋から「破船」を執筆、通俗作家としても広い読者を獲得した。文壇で確固たる地位を築いた後、温厚な性格から文壇の世話役として活躍した。



「まあ、あがりたまえ」



文士仲間と後列左から芥川龍之介、宇野浩二、久米、右端が直木三十五、前列左端が菊池寛。
久米は野球・ゴルフ・麻雀など、当時はまだ一般になじみのなかった遊戯に親しんでいました。

久米正雄記念館(旧久米邸)

こおりやま文学の森

(郡山市文学資料館・郡山市久米正雄記念館)

郡山は明治以後、安積開拓により急速に発展しました。その開拓の中心が開成山です。開成山は、中條政恒の座右の銘「開物成務」からとって名付けられました。当時、現在の開成山大神宮のある付近には「放れ森」と呼ばれる小高い丘がありました。文学の森とは当時を偲んで名付けられたものです。

郡山市は、その発展を背景に久米正雄をはじめ多くのゆかりの文学者を輩出してきました。「文学資料館」では、それらの文学資料を中心に展示公開を行い、各作家の足跡をたどります。

さらに、敷地内には、鎌倉にあった久米正雄邸を移築復元し、「久米正雄記念館」として内部を公開いたします。邸内には久米の愛用した品々を展示し、趣味や交友の広さをご紹介します。

各館では映像や書籍に接するコーナーも設けておりますので、気軽に文学に接することができます。



①文学資料館



こおりやま文学の森
案内図



③中山義秀文学碑



⑤久米正雄胸像



④久米正雄句碑



②久米正雄記念館(旧久米邸)



- 開館時間
午前10時～午後5時まで
(ただし午後4時30分までに入館のこと)
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が祝日のときは翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)
館内整理日
- 利用料金(文学資料館・久米正雄記念館共通)
個人〔一般/200円 高校・大学生等/100円〕
団体〔一般/150円 高校・大学生等/70円(1人につき)〕
※中学生以下・65歳以上及び障害者手帳をお持ちの方は無料。
※「団体」は20名以上です。
- 交通
バス…郡山駅前バスのりばから「総合体育館前」下車
自動車…郡山総合体育館西側駐車場利用(無料)
- お問い合わせ

こおりやま文学の森資料館
郡山市文学資料館 郡山市久米正雄記念館
〒963-8016 郡山市豊田町3番5号
TEL. 024-991-7610 FAX. 024-991-7620
ホームページ
<http://www.bunka-manabi.or.jp/bungakunomori/>
E-mail
bungakunomori@bunka-manabi.or.jp
※こおりやま文学の森資料館は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社が指定管理者として管理運営しています。

Facebookでも情報発信中!
[fb.me/bungakunomori](https://www.facebook.com/bungakunomori)

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C010137

紙ヘリサイクル可
この印刷物は、印刷用の紙ヘリサイクルできます。
環境にやさしい植物由来インクを使用しています。

FSC
www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK